

没後200年



時代を超越する偉人

伊能忠敬

コゴスゴイ!

人物像

地上で距離と角度を量り、さらに天体で角度を測る…。日本全国を測量して歩き、気の遠くなる膨大な作業を丹念に繰り返した伊能忠敬。初めて実測による日本地図をつくりあげる偉業を成し遂げました。没後200年の今、福智とも無縁ではない忠敬を知り、忠敬に学びます。



【いのう ただたか】
伊能 忠敬
[1745 - 1818]

江戸中期の地理学者・測量家。18歳で下総国佐原の伊能家の養子となり、家運を盛り返して名主を勤めた。50歳で隠居後、江戸に出て天文暦学を学ぶ。のちに全国の実地測量を行い、日本最初の実測地図を作製した。(伊能忠敬像/千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵)



point 1

50歳から猛勉強!

家業や村の役職で活躍したのちに隠居した忠敬。50歳で江戸に出て天文学や測量術を猛勉強して学問を修め、なんと55歳から全国測量を始めました。

point 4

数千万円支払う!

最初の測量にかかった費用は現在のお金で数千万円。当初幕府が支給したお金は大変少なく、かかった費用の多くを忠敬が用意しました。



point 6

地球一周分歩く!

忠敬が55歳から17年間にまでおよんだ日本全国の測量は全10回。1日40kmも歩き、その合計距離は地球一周とほぼ同じ、約4万kmとなりました。



伊能忠敬が最初に測量してつくった実測図。寛政12年(1800)から奥州街道および蝦夷(えぞ)地の東海岸の測量に着手しました。(寛政十二年測量小図一部抜粋/伊能忠敬記念館所蔵)

point 2

初めて実測で日本地図を作成!

日本全国を測量して歩き、実測による日本地図を初めて完成させた忠敬。現在の地図と比べても遜色ない、精度の高い、美しい地図を残しています。

point 3

全国の名勝地も書き残した!



伊能忠敬の詳細な測量日記には、日本各地を歩く中で出会い、感動した風景についても記され、いくつかの名勝図も残されています。

(名勝図 巖島/伊能忠敬記念館所蔵)

point 5

地球の大きさを求めて測る!

精度を高めるため日本で最初に地球の大きさを計算した忠敬。蝦夷で観測を続け、緯度1度を111kmと求め、地球の大きさを39,960kmと計算。実際の地球の大きさ40,000kmとの誤差は、わずか1/1000という驚異的な結果でした。



伊能忠敬7代目子孫

奥永 渚さん(赤池)



「偉人伊能忠敬翁とその子孫」は、忠敬の子孫が持つ貴重な書籍。



忠 敬の2人目の妻「妙諦」との間に生まれた三女「琴」の子孫である奥永渚さん(赤池)は、忠敬から数えて7代目にあたります。「先祖があまりにも偉大で、子孫という実感がわかりませんが、伊能忠敬の功績を称え、多くの方に知っていただくのはとてもありがたく光栄なことだと感謝しています。50歳から勉強し、地図を作り出した忠敬から“何歳からでもチャレンジできる”という前向きな気持ちを共有できたらうれしいです」と奥永さん。忠敬の子孫の集まりやイベントにも積極的に参加しています。「忠敬が歩いた道をたどると感慨深いですね。いつか将来、忠敬が見てきた景勝地も巡ってみたいです」と先祖に思いをはせました。

先祖が歩いた道
見てきた景色を
巡ってみたい



忠敬の測量日記にある「金田村」の記述にゆかりある島津屋敷の近くで。

赤池会所跡

江戸後期から金田盤の船庄屋を務めた島津家(人見駅付近)。弘化元年(1844)、小倉藩は金田村と赤池村の境界付近に「赤池会所」を設立。赤池炭として若松へ運ばせ、石炭の採掘・販売を藩の事業としました。(出典:田川産業経済大観)





偉人・伊能忠敬

高精度な コダワリ! 測量機器

測量と天体観測を組み合わせ、何度も誤差を修正する忠敬の測量手法。職人に独自の機器を特注するなど、高精度な測量機器を駆使しました。

(測量機器6点全て / 伊能忠敬記念館所蔵)

【方角をはかる】

杖先方位盤

道路の曲がる角度などをはかる器具。杖の先端に常に水平が保てる360度の目盛りが付いた羅針盤(方位磁石)があり、角度1度まで読むことができます。



【方位をはかる】

半円方位盤

遠くの山や島など目標物への方位をはかるための器具です。視準器を半円盤上で回転させ、目標物に合わせて方角を求めます。



【距離をはかる】

量程車

動かした距離をはかる器具。引いて歩くと車輪と連動して歯車が回り、距離を数字で表示します。



【時間をはかる】

垂揺球儀

振り子が振れた数を記録する器具。太陽が一日かけて同じ位置になるまでの間に、振り子が何万回振れたかをはかります。



【坂道の角度をはかる】

小象限儀

坂道の勾配の角度をはかる器具です。坂道の距離を角度をはかることで平面に置き換え、水平距離を計算しました。



【星の角度をはかる】

中象限儀

北極星など星の角度をはかる天体観測の器具です。観測した結果から測量地点の緯度を計算。伊能図にある1千箇所以上の星印は、天体観測を行った場所です。



多才な スゴイ! 資質

伊能図の偉業
だけではない
忠敬のすごさ



探究者、忠敬。 精度の向上を追求!

努力と創意工夫にあふれたアイデアマン

御用
測量方

日本初の実測全国地図を作成した忠敬でしたが、その測量方法は決して目新しいものではなく、従来からある測量方法で粘り強く、細部にまでこだわり抜いた集大成と言えるものでした。忠敬は、地道に努力を重ねる秀才タイプ。測量の精度を高めたい一心から、経験と知識から生み出した豊富なアイデアで、測量機器を進化させていきます。それらは当時、最も優れた精密なものでした。また、測量が国の事業であることを知らせる「御用」の旗も忠敬の考案によるものです。



勉強家、忠敬。 第二の人生に挑む!

50の手習いから全国的偉業を成し遂げる

50歳で当主と名主を隠居した忠敬。「やるべきことはやり尽くした」との思いは、ライフワークともいえる暦学研究へと駆り立てていきます。忠敬は江戸に居を構え、念願だった暦学の研究に没頭。楽隠居することなく、果敢に第二の人生に挑みました。幼い頃から勉強好きで天文学にも興味を持っていた忠敬。その旺盛な知識欲を生涯にわたって持続させ、5千冊もの蔵書で学問を独学。50歳を過ぎてもなお新たな知識を吸収しました。そして、師・高橋至時に弟子入りし、わずか5年後には、幕府認可の測量者として蝦夷地へ向かうことになります。



指導者、忠敬。 惜しまず米を与える!

名主としての強いリーダーシップと責任感

伊能家の当主と地元の名主となった忠敬は、次第に強い責任感と指導者としてのリーダーシップを発揮していきます。特に非常時の危機管理能力は高く「天明の大飢饉」では、事前に得た米の売買による莫大な資産を抛出し、備蓄していた米を惜しみなく困窮者に与え、被害を最小限に食い止めました。忠敬は、貧民救済の思想を持つ篤志家でもあり、土木工事で就業機会を提供したり、村の財政基金を積み立てたりしています。伊能家の財産は、地元地域共有の資源だとしていた忠敬は、優れた指導者として多くの支持を得ました。



経営者、忠敬。 その商才を発揮する!

多角経営で45億円といわれる資産を形成

忠敬を婿養子に迎えた伊能家は、代々、村の名主(現在の村長のような役目)を務める名家で、多くの奉公人を抱え、酒造りや米の売買、金融業などを営む規模の大きな商家でした。当主となった忠敬はその商才を発揮し、優れた多角経営のセンスで伊能家を大きく成長させることに成功。一説にその資産は約3万両(現在の45億円程度)にのぼったと言われます。忠敬が培った近代的経営者の視点や人を見る目、人を束ねる手腕、そして巨額の資産は、その後の全国測量に活かされていくのです。



田川郷土研究会 会長
中野 直毅さん(伊方)

「第8次測量で田川地域を測量した忠敬は68歳。19人の測量隊を地元の各村々が支え、支援隊は1日200人以上にのぼったと考えられます」。伊能忠敬研究会の会員でもある田川郷土研究会会長の中野さんは「まさに国家プロジェクトとも言える大事業でした」とその偉業を讃えます。地図の精度の高さを求めた忠敬は、困難な地でも限界まで足を踏み入れ、逆側からも測り直す「見返り測量」など作業に余念がなかったといいます。「何度もベストな作業を繰り返した忠敬。コツコツと努力を積み重ねることの大切さや偉大な価値観を多くの子どもたちに知ってほしいですね」。忠敬が歩いた道をたどりながら、忠敬の足跡を広く伝えていきます。

努力積み重ねる
忠敬の価値観を
次代へ伝えたい



10月8日の「伊能忠敬の歩いた道ウォーキング」で講師を務める中野さん。



忠敬が歩いた道
「伊能図を見ていくと江戸時代の道が見えてきます。その道沿いには確かに古いものが並んでいて、昔の風景が浮かび上がってきます」と中野さん(写真右)。田川市で忠敬が歩いた道を120人の参加者とたどりました。

point 2

金田村と弁城村を測量日記に記す
船通行の要所として金田村を認識

度目の九州測量となった第8次測量で伊能隊が田川地区を測量します。文化10年(1813)10月10日の測量日記で「川下は筑前遠賀川、これより一里川下金田村まで芦屋より船通行、左五丁山根に当領弁城村、岩窟、テ所方二間半の入口にて奥の深さ知れ難し」と忠敬が伝聞を記しています。実際に福智町では測量していませんが、基本的に自らが目にしたものしか記録しない忠敬が、わざわざ書き残したことから、要所として認識していたことがうかがえます。



金田村と弁城村の記述がある測量日記。「伊能忠敬測量日記23巻」より一部抜粋(伊能忠敬と伊能図の大事典をつくる会)

point 4

実測による高い正確性と美しい地形描写
明治の日本の近代化に貢献

忠敬が作った地図、通称「伊能図」は、縮尺の異なる大図・中図・小図の3種類のほか、名勝地を絵画のように描いた特別図などがあります。いずれの地図も実測による高い正確性を持ち、地形描写には日本画の手法が用いられ、美しさも兼ね備えた仕上がりです。江戸時代には一般公開されなかった伊能図でしたが、幕末から明治にかけて、伊能図を基にした近代的な地図がさまざまところで作られ、明治の日本の近代化に大きく貢献しました。



伊能図を原図に明治陸軍参謀局が作成した九州北部地図。(「伊能中図 九州北半」一部抜粋/国土地理院)

point 1

忠敬にとって覚悟の九州測量
複雑な海岸線の地形と老いに苦戦

本州四国の測量を終え、いよいよ九州に向かった伊能隊。しかし、複雑な地形や老いが忠敬を苦しめます。当初、九州を1回でまわる予定でしたが、第7次、第8次と測量は2度に及びます。特に第8次測量の所要日数は914日と、10回の測量行のなかで最長となりました。忠敬にとって、2度目の九州測量は覚悟の遠征でもあり、齢70を目前にした忠敬は、出発前に遺言状ともいえる手紙を家族に宛てていました。



point 3

伊能隊による測量技の集大成
極めて精度の高い九州地図

先手隊、後手隊、支援隊といった伊能隊の組織的な測量により、極めて精度が高いといわれる九州測量。足掛け17年に及ぶ全国測量が完了した後、日本全図の製作に取り掛かった忠敬ですが、地図の完成を見ずに73歳で亡くなります。しかし、忠敬の死は公表されないまま、3年後に弟子たちの手によって完成され「伊能忠敬」の名前で幕府に提出されました。



二度にわたったが驚異的な精度を誇った九州測量。(「伊能図 九州全図」一部抜粋/松浦史料博物館)



二度にわたる
最長の!
九州測量

忠敬の全10回に及ぶ測量行程の中で最長となった九州測量。その第8次測量でいよいよ伊能隊が田川地域を測量します。



田川を記した伊能図、中央部に福智山が確認できる。(「伊能図 筑前 豊前 小倉 長門 赤間関」一部抜粋/国土地理院)

村上農園 園主

村上 怜右さん(赤池)



ブラジルで27年過ごし、経営者から農業の道へ。とよみつひめの甘さは村上さんの思いが実を結んだものです。



通 信会社に勤めていた村上さんは44年前、海外駐在員に抜てきされ、家族でブラジルのサンパウロへと渡りました。11年間働いたのち、現地で起業。ブラジルの通信インフラ整備に大きく貢献しました。59歳のとき、起業した会社を手放し、妻の生まれ育った赤池でとよみつひめの栽培を決意。「なんでもやればできる。慣れない農業もやればできた」。試行錯誤を繰り返しながら始めた栽培も今年で17年目。村上さんのとよみつひめは、その高糖度と高品質が評判を呼び、ふるさと納税の返礼品で全国ランキングの上位を獲得。「待ってくれている人のためにも頑張りたい」と76歳を過ぎた今も決して努力を惜しみません。

やればできる、
やらないなら
できない。



異国文化にもまれながらもブラジルで生き抜いた村上さん(写真中央)。



村上農園 (福智町市場)
約500㎡の県内最大規模のビニールハウスを有し、農業の使用を極力抑えた丁寧な栽培で高品質ないちじくを生産。5月中旬から9月にかけて収穫し、農協や農園内で販売しています。

どんなときも
明るく、楽しく
元気よく!



納品前の品質チェックは入念に大井さんが行っています。

楽心堂本舗 副社長

大井 知子さん(金田)



テレビ番組の「情熱大陸」が原動力と語る大井さん。落雁に情熱を注ぐ新たな人生を踏み出しました。



「夢 は自分の道に情熱を注ぎながら第一線で活躍し、人に勇気を与える存在になること」。東京でライターとして活動する傍ら、事務員として働いていた大井さんは、30代前半のとき自分の人生を考え直し、母・哲子さんが始めた家業を継承することを決断。会社経営などゼロから学ぶ日々は、今までで一番辛い時期だったと振り返ります。「苦しみの中にも喜びを見出すようにしています。地域貢献できる会社、田川を盛り上げていく会社、地元で雇用を生み出す会社、福智町を代表するような会社になるのが今の目標です」と大井さん。仏様への御供物を形作るため、自らの心も映すように誠実な手仕事を心がけています。



楽心堂本舗 (福智町金田)
大井さんの母・哲子さんが平成18年に開業し、弟・忠賢さんが株式会社として設立。福智町を拠点に、落雁を用いたお供物を制作・販売。多彩な色と技で表現されたお供物は評判を呼び、全国へと販路を広げ、急成長しています。

平成筑豊鉄道 社長

河合 賢一さん



「乗って残そうへいちく」。復興に向けてちくまるグッズPR販売も展開。



東 京大学を中退後、大分県庁に入庁。ツーリズム会社社長やバス会社取締役で手腕を振るった河合社長。平成筑豊鉄道の社長公募を知り「幼い頃育った筑豊の活性化を進め、自分の手で経営改善できれば」と新たな一歩を踏み出します。就任時には「ひと駅ごとに宝を掘り起こし、観光につなげたい」と抱負を語り、時間があるときは各駅周辺を歩き、宝探しをする河合社長。「実際に歩くことで見えてくるものがある。一駅ひと駅個性があり、地元の人に愛されている。発見したことを発信していきたい」と目を輝かせました。「沿線で暮らす人々によりよいサービスを提供し、暮らしの役に立ちたい」と未来を見据え夢を追い続けています。

「何事も
めげずにやる」
それが一番。



HISの社長からの助言を胸に、平成筑豊鉄道の再建を誓った河合社長。



平成筑豊鉄道 (本社:福智町)
旧国鉄時代から含めて125年間、地域と人を支え続けた鉄道。石炭をはじめとした輸送面でも力を発揮しました。沿線の人口減少に伴い乗客は減る一方ですが、存続に向け新たな挑戦を始めています。(昭和49年撮影/新具重信氏)



人生の分岐点と 一歩一歩 それぞれが歩み続ける

伊能忠敬のように何歳からでも新しいことにチャレンジできる時代が到来しています。人生百年時代と言われる昨今、新たな道へと進み、今なお挑戦し続けている人たちが—— 人生の途中で一念発起し、次のステージへと歩みを進める福智の人々の生き様に迫ります。



筑豊・田川 デジタル アーカイブ

無料で閲覧が！

伊能忠敬の歩いた道や炭鉱、鉄道の歴史、昔の地図など近世・近代の田川の歴史コンテンツがインターネットでどこでも閲覧することができます。利用登録は不要です。



石炭を運搬する川ひらた (出典:田川市史中巻)

筑豊田川デジタルアーカイブ 検索

伊能忠敬企画を開催

伊能忠敬企画を「ふくちのち」で開催。関連書籍も展示しますので2階和室にぜひお立ち寄りください。



一身二生、
五十にして
天命を知る。

伊能 忠敬



(伊能忠敬像 / 伊能忠敬記念館所蔵)

「人は夢を持ち前へ歩き続ける限り、余生はいらない」という言葉を残した伊能忠敬。地球一周分を歩き、驚くべき精度の日本地図を作り上げ、偉業を成し遂げます。没後200年にあたる今年、再びその足跡と生き方が人々の心を動かしています。傾きかけていた伊能家を立て直し終えた忠敬が息子に家督を譲り、19歳年下の天文学者・高橋至時に師事したのは50歳の時。五十にして天命を知った忠敬は、事業家から測量家へと身を転じ、一生のうちに二つの人生を生きるような、まさに「一身二生」の人生を全うしました。50歳を過ぎて新境地を開拓し、大事業に挑み、さらに充

実した人生を生き抜いた忠敬。一步一步を積み重ね、壮大な目標を成し遂げた実直な忠敬の生き様と情熱は、夢を追うすばらしさを今の私たちに語りかけています。夢は叶うか叶わないかではなく、追うか追わないか。人生100年時代の今、だれもに「一身二生」を歩むチャンスが訪れています。



福智町長 嶋野 勝 町長



人生を支え糧となってきた本、毎日30分の読書を欠かさない町長。

名 刺一枚でどこでも行ける会社、夢を追いかけられるような仕事に就きたいと、法政大学卒業後、山一証券に入社。3年たったとき父親が倒れたと連絡を受け、悩んだ末、会社を辞めて家族と帰省しましたが、父親は仮病だったそうです。そこで、仕事がなかったので、学生に勉強を教えようと塾を始めました。最初の生徒は4人、翌年は25人、全盛期は250人の生徒を抱えるまでの塾に成長しました。「生徒には体当たりで厳しく接した。夢を持つことの大切さを常に伝えました。人を変え、町を変え、田川を変えたいと真剣に思っていた」と振り返る嶋野町長。塾でできることに限界を感じ、教育長を務めたのち町長に挑戦して現在2期目。「子どもたちには無限の可能性がある。夢を持たせるのが大人の使命」だと人生一貫して思ってきました。「子どもが持つ夢や希望は、大人次第、子どもたちが故郷を誇りに思うにはまず大人がそう思えなければならない」と嶋野町長。「だからこそ、私は夢を持ち続ける」と力を込めました。

可能性に挑む。
子どもに志を、
大人に夢を。



塾長時代を振り返り、子どもたちや夢について胸中を語る嶋野町長。



マレーシアでカードを使っている計量の仕方を教えている西中さん(写真右)。

あきらめない。
投げ出さない。
怒らない。

海外シニアボランティア 西中 純子さん(上野)



ピザ作りやパン作りも得意な西中さん。セルビア共和国でも調理をコンテンツにした自立支援を進めています。



国際協力機構(JICA)のシニアボランティアでセルビア共和国への派遣が今年の夏に決まった西中さん。定年退職後「目的をもって人生の余暇時間を過ごしたい」と海外ボランティアに挑戦。障害者の自立と人権向上のため、マレーシアで2年間、通所施設の職員に指導と支援を行ってきました。「あきらめず、投げ出さず、怒らずに国のモデルになるよう施設を支援していきたい」とセルビアでは通所者の収入向上につながるような企画を立案。「年だからと理由をつけて挑戦しなかったら何も始まらないし、世界も広がりません。帰国後には障害者の余暇時間をサポートする仕事につきたいです」と将来を見つめ、今を生きています。



JICA (国際協力機構)

日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を担うJICA。「信頼で未来をつなぐ」というビジョンを掲げ、海外青年協力隊や海外シニアボランティアなど世界約150カ国に派遣しています。

LET'S START



THE BASICS
Q&A
ウォーキングを知る

WALKING FOR HEALTHY LIFE

カラダづくりに効果大、 今から始める忠敬ウォーキング。

伊能忠敬は全国測量のため、赤道沿いに地球を一周するのと同様、およそ4万km以上もの距離を踏破。日々楽しみながら歩き続けるウォーキングには「生涯現役」で人生を送るためのひけつがありました。明日からでも始められるウォーキングのポイントについて、忠敬の歩みとともにご紹介します。

Q4 どのようなメニューで始めたらいいの？

A ステップ①でできるだけ階段を使い、徒歩で移動しましょう。
ステップ② 普段の歩行速度で週1回30分、ゆっくり歩きます。きついときは、5〜10分程度から始めましょう。
ステップ③ 週3回30分ゆっくり歩きます。負担にならない程度で頻度を増やし定期的に歩くことに慣れましょう。慣れたら速く歩いたり週4回に増やしましょう。

Q5 歩いた後のストレッチの重要性とは？

A 疲れを残さないことが継続するための意欲になります。早めの速度で歩いた後は、静的ストレッチを行います。疲労回復やケガの予防にもなります。使った後の筋肉をゆっくり伸ばして緊張を解き、血流を回復させると疲労物質も速く排出され、柔軟性も高まります。疲労が残りにくくなり、次の日からの意欲向上が期待できます。

Q6 屋内で運動できる場所はあるの？

A 福智町B&G海洋センター（金田）は年間通していつでも泳げる温水プールです。25mのコースを6つ備え、誰でも利用可。水中を歩くことで膝の負担も軽減できます。
また、コスモス保健センターのトレーニングルーム（赤池）は、多様な器具をそろえ、一人ひとりのレベルに応じた運動やストレッチを専門スタッフが指導します。

Q3 正しいウォーキングと効果的な方法は？

A やや前傾姿勢で腕は自然に振りましょう。無理に背中を伸ばす必要はありません。視線を少し上げて自然なポジションで始めます。速さは「時速6km」が目安です。歩きで健康づくりをするのであれば、意識をスポーツとしてのウォーキングへと転換しましょう。歩幅を広げ、速度を上げてレベルアップすると、より効果的です。

Q1 伊能忠敬の歩き方にはどんな特徴があった？

A 伊能忠敬や測量隊員は歩幅二尺三寸（約69〜70cm）を正確に刻み、1日40km程度を歩き続けました。第一次測量の際、数人で同じ歩幅で歩き歩数を数え、その歩数から距離を出すために、一步を約70cmで歩く訓練をした結果、正確に刻めるようになったといえます。40kmは当時の単位で10里。これは、現代人でも歩けない距離ではないそうです。

Q2 歩くことで健康体になれる第一の理由

A 歩くことは誰にでもできる基本的動作です。長く続けると有酸素運動になり、血液循環がよくなります。血液循環がよくなることで、栄養や酸素が体の隅々にまで届けられ、細胞や脳が活性化されます。歩いているときに仕事の解決方法やアイデアが浮かんできた経験がある人もいるのではないのでしょうか。脳が活性化されている証拠です。



愛犬トイプードルのチップと散歩を楽しむ伊能忠敬7代目子孫の奥永さん。